

特集

ベールを脱いだ北広島駅西口開発

これが『キタヒロ・ホームタウン-BASE』の全貌だ



▲駅西口周辺の予想図

北広島市内に2023年3月開業予定のプロ野球北海道日本ハムファイターズの「北海道ボールパークFビレッジ」(BP)に伴うJR北広島駅西口の整備計画が、7月中旬に北広島市と不動産開発業者の

日本エスコン(本社・東京)から発表された。BP建設現場の見学会も開かれ、全道でコロナ禍の自粛ムードが続く中、ここだけは「お祭りムード」が漂っている。
(ジャーナリスト・黒田 伸)

いたもののコロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言で、延期されていた。

市の新たな顔づくりを通じて、未来のまちをつくるお手伝いをさせていたいただきます」と自信にあふれた言葉が並んでいる。

ようやく実現した7月13日の市民向け説明会には同市ボールパーク推進室の川村裕樹室長ら市の担当者と、日本エスコン北海道支店の大久保敬副支店長らが出席。参加した市民にA4判10頁にわたるカラー印刷の「駅西口周辺エリア活性化整備計画」が手渡された。

し、数軒の雑居ビル内のテナントの入れ替えも激しかった。さらに50年前の子育て世代が高齢化したことで、子どもたちが札幌や道外に転居。本来なら「顔」であるべき駅周辺が閑散とする状態が続いていた。

そんな中、BP建設が決まったことで、西口の活性化に期待する

ていた。

北広島駅西口開発については北広島市が昨年、市有地4カ所約2.4畝を中心とした土地利用案を募集し、新球場の命名権を取得している日本エスコンを優先交渉権者に選んでいた。

こうした流れの中で、北広島市と日本エスコンは、3月30日に西口周辺の再開発に向けた連携協定(パートナー協定)を締結。直後に、市民説明会を予定していた。

未来をつくるお手伝い

その計画によれば、ホテルなどが入る地下1階、地上18階の複合ビルを建設し、1階部分には新球場へのシャトルバス発着場を設け、分譲マンションや保育所の整備も進めるとし

「キタヒロ・ホームタウンBASE 2021-2029」と題された計画書をめくると、駅西口の活性化について、

全国の都市において、老朽化した駅前既存施設のリニューアルや建て替えにより、駅前の価値向上や住宅整備等、求心力を高めるまちづくりの実績があります。

ただ、仕事場(勤務先)は札幌市内の人が多く、朝出勤して夜に帰宅する文字通り「ベツダタウン」としての役割を求めているために、「建つては消え、消えては建つ」を繰り返

する



駅西口エリアは大きく変貌する▼

現在のJR北広島駅構内▶



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)